

39. 福岡県 (Fukuoka Pref.)

作成者: 福田 治1); 協力者: 景浦宏, 溝部忠志, 森田公造, 佐々木公隆, 新海義治, 上田恭一郎, 矢田脩, 矢後勝也 作成日付: 2003年1月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
EX	ウ	EX	キマダラモドキ	-	-	若杉山, 福智山, 田主丸町, 熊渡山, 英彦山	1901年英彦山神社で採集されたのが本県最初の記録。その後、若杉山の産地が発見され、1960年代までは県内で少ないながら記録があった。特に若杉山は多産することもあったという。しかし、1970年代にはまったく記録がなくなり、目撃の報告もない。クヌギ林など本種の生息地は人為による環境変化を受けやすく、これが本種の衰退の主要因と考えられる。1997-1999年の調査でも再発見はできなかった	県内の産地はいずれも、草原にクヌギ、コナラの二次林が混じる環境にあったが、これらの生息地のほとんどが針葉樹の造林地となってしまった。このことが本種の衰亡の要因と考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスト(1992年)で「絶滅種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EX	ウ	EX	ル - ミスジミ	-	-	北九州市福智山(唯一の産地であった)	1962年に福智山での雄の採集記録のみで、以後40年近く記録がなく、生存は絶望的である	1960年代以降、生息地周辺のイテイガシを含む照葉樹林がほとんど伐採されたことが主要因と考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスト(1992年)で「絶滅種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EX	ウ	EX	ギンイチモンジセセリ	-	-	朝倉郡小石原村(唯一の産地であった)	1901年に英彦山近くの小石原で確認された記録があるが、その後まったく確認されていない	生息地の農地化、造林地化	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスト(1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅種」とされている
EN	ソ, ツ	EN	ヒカゲチョウ	-	北九州市, 浮羽郡の2ヶ所のみ到现在もわずかに残存しているという	福岡市(南公園, 平尾, 香椎), 太宰府市, 古賀市, 久山町, 新宮町, 宇美町, 須恵町, 若杉山, 高良山, 北九州市(皿倉山, 小倉, 福智山, 平尾台), 三井郡花立山, 朝倉郡, 浮羽郡, 大牟田市, 矢部村(日向神 - 釈迦ヶ岳), 添田町英彦山, 築上郡, 豊前市, など	1890年英彦山で採集されたのが本県最初の記録である。その後、福岡市, 北九州市, 久留米市をはじめ、県内の各地から報告されている。本種は1960年代までは普通種で、平地から低山地にかけてしばしば多産するチョウであった。しかし、その後記録が急減し、1992年の北九州市足立山での記録を最後に現在はほぼ絶滅に近い状態にある	県内の産地はいずれも、クヌギ、コナラの二次林が中心であったが、これらの生息地は人為による環境変化を受けやすく、これが本種の衰亡の主要因と考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスト(1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EN	ソ, ツ	EN	クロヒカゲモドキ	-	-	久留米市高良山および大牟田市三池山	1926年久留米市高良山で採集されたのが本県最初の記録である。その後、同じ産地で1959年まで少数ながら採集記録があった。また、1963年大牟田市三池山で1雌が得られて以来、1960年代までは福岡県内で少ないながら記録があった。しかし、主産地であった高良山の生息地の環境変化によりまったく見られなくなってしまった。1997-1999年の調査でも再発見はできなかった	クヌギ、コナラ林の中のやや暗い低丈の草原に限って生息する種であるため、そのような環境の消失が主たる要因と考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスト(1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EN	ソ, ツ	V	ウラギンシヒョウモン	-	福岡市脊振山, 若杉山, 宝満山, 高良山, 古処山, 北九州市八幡, 浮羽郡, 矢部村, 星野村, 英彦山, 豊前市, など	福岡市(南公園, 平尾, 香椎, 油山, 能古島), 高良山, 北九州市(八幡), 浮羽郡, 瀬高町	1893年に長野菊次郎氏が筑前(福岡県)で採集された記録が本県最初の記録といえる(長野, 1893)。1930-40年代には、福岡市, 北九州市, 久留米市, 英彦山, 八女郡など全県下で多くの記録があり、その後も1970年代までは福岡全県下で連続的に記録があった。しかし、1970年代後半から報告が急減し、1990年代からはその記録もほとんどなくなった。恐らくオオウラギンシヒョウモンと同質の衰亡と考えられる	本種の生息地であるシバ草原の減少によると考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスト(1992年)で「危急種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EN	ソ, ツ	EN	オオウラギンシヒョウモン	-	北九州市平尾台での生存が危ぶまれる	福岡市(東公園, 志賀島), 若杉山, 久留米市(草野町, 高良山), 北九州市(皿倉山, 福智山), 花立山, 朝倉郡, 浮羽郡, 大牟田市, 星野村, 英彦山, 築上郡, 豊前市など	1893年に採集された記録が本県最初の記録。1930-40年代には多くの記録があり、その後も1970年代までは県内全域で連続的に記録があった。しかし、1978年からは産地は北九州市の平尾台のみとなり、1990年代からはそこの記録もなくなった	本種の本来の生息地が低地のシバ草原など人為による環境変化を受けやすい場所であったこと、また、夏眠場所の破壊や吸蜜植物の衰亡などが相乗的に影響して、本種が著しく衰亡したものと考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスト(1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EN	ソ, ツ	EN	ホシミスジ	-	添田町の英彦山山系のみから知られ、生存が危ぶまれる	-	1902年に英彦山において採集されたのが最初の確実な記録である。その後、1948年同地で採集され、1950年代まで少数ながら記録があった。しかし、その後は正式の記録はまったくなく、1970年に未確認の採集情報があるだけである。1997-1999年の調査でも再発見はできなかった	スギ、ヒノキなどの針葉樹の造林による陰湿化により、明るい草原や林辺に分布していた食樹が急激に衰亡したことが主要因と考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスト(1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EN	ソ, ツ	R	ウラゴマダラシジミ	小石原村, 田川郡英彦山山系, 築城町	-	-	1946年に添田町の英彦山の銅の鳥居付近で採集されたのが最初の記録である。その後、英彦山山系では少数ながら連続的に記録がある。1987年に朝倉郡小石原村で、また1990年に築城町でそれぞれ発見されている。しかし、全体的には、個体数、産地とも縮小傾向にある	本種の生息地の環境は人為的変化を受けやすく、開発や造林によって悪化したのが要因と思われる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスト(1992年)で「希少種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EN	ソ, ツ	EN	アイノミドリシジミ	-	添田町の英彦山, 犬ヶ岳のみから知られる	-	1960年に英彦山の豊前坊において、1雄1雌が採集された。以後1961, 62年に追加の雄雌。1962年から1978年にかけては少数ながら採卵記録がある。しかし、その後の公式な報告はない。情報によると犬ヶ岳で散発的に採集されているらしいが、その発生数はごく少ないという	落葉広葉樹林の伐採と、針葉樹の植林による生息環境の悪化が要因と思われる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスト(1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている

39. 福岡県 (Fukuoka Pref.)

作成者: 福田 治1); 協力者: 景浦宏, 溝部志志, 森田公造, 佐々木公隆, 新海義治, 上田恭一郎, 矢田脩, 矢後勝也 作成日付: 2003年1月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
EN	ソ, ツ	EN	エゾミドリシジミ	添田町の英彦山山系および豊前市犬ヶ岳の経読林道からのみ知られる	-	-	1959年に英彦山の豊前坊で1雄が採集され、1962年まで雌を含む報告が続いた。1962年から冬期採卵が行われるようになり、1978年まで少数ながら報告がある。以後1995年豊前市犬ヶ岳の経読林道で成虫、1996年添田町障子岳で1雄が採集された。なかでも経読林道では2002年まで年間複数個の個体が採集されている	障子岳、経読林道ともに自然林伐採が圧力になり、残存したミズナラでかろうじて発生している	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスタ1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EN	ソ, ツ	EN	ミヤマカラスシジミ	-	これまで添田町の英彦山山系のみから知られる	-	1928年に英彦山で採集されたのが最初の記録。その後1935年から1966年までは文献上の記録があるが、以後は採集情報もほとんどない。ただ、1984年頃に英彦山での未発表の採集記録がある	落葉広葉樹林の伐採と、針葉樹の植林による生息環境の悪化が要因と思われる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスタ(1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EN	ソ, ツ	EN	シルビアシジミ	-	志摩町姫島	福岡市、北九州市及びその近郊、久留米市、三井郡、浮羽郡など	1921年に福岡市南公園で採集された1雄が本県最初の記録。1950～60年代は福岡市、北九州市、あるいはその近郊で普通の種であり、南公園や能古島では多産したという。しかし、1972-74年福岡市南区柏原において多数生息していたものの、その後は減少が著しく、80年代には芥屋において1雄の採集記録があるのみで、90年代には正式の記録がなくなる。1997-1999年の調査では、姫島で確認されたにすぎない	生息地は人為による環境改変を受けやすく、県内でも宅地化、公園化、河川の改修などによる生息環境の変化が本種の衰退の主要因と考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスタ(1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EN	ソ, ツ	EN	タイワンツバメシジミ	-	-	福岡市(香椎, 能古島), 若杉山, 小郡市三沢, 久留米市(草野町, 高良内), 矢部村など	1929年糟屋郡若杉山で2雄が採集されたのが本県最初の記録。1950～70年代前半までは若杉山, 福岡市内, 久留米市などで局地的ながらしばしば多産した。しかし、1970年代後半から記録がなくなり、1991年に北九州市で1雌の採集記録があるが、ほとんど絶滅状態である。1997-1999年の調査でも再発見はできなかった	生息地は人為による環境改変を受けやすく、県内でも生息環境の変化が本種の衰退の主要因と考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスタ(1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
EN	ソ, ツ	EN	キバナセセリ	-	八女郡星野村および矢部村の山地帯のみ	-	1958年に星野村の熊渡山山頂で採集されたのが最初の記録である。その後1961年に同じく星野村の仁田原で目撃。また1977年に矢部村釈迦ヶ岳で採集されているが、その後の確実な記録はない。しかし、生息地周辺の植生は比較的良好に保たれているので、今も生息していると考えられる	熊渡山では、ほぼ全域がスギ・ヒノキ林に変わり、食樹自体がなくなった。また、釈迦ヶ岳においては落葉広葉樹林の伐採により生息域が大幅に減少したと考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスタ(1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
VU	タ, テ	V	ツマグロキチョウ	-	福岡市、北九州市およびその近郊から久留米市、英彦山、矢部村など県内全域から記録がある	-	1902年に北九州市で採集された記録が本県最初の記録である。1950～70年代は県内全域で普通に見られ、たとえば福岡市内の空き地、河川敷などでしばしば多産した。しかし、1980年代から明らかに減少しはじめ、90年代には正式の記録が急減した	食草であるカワラケツメの壊滅的減少と本種の衰退は連動しているようである	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスタ(1992年)で「危急種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
VU	タ, テ	V	エソスジグロシロチョウ	甘木市寺内ダム, 北九州市平尾台, 香春町	高良山, 古処山, 星野村, 矢部村, 嘉穂郡千手など	筑紫野市天拝山, 瀬高町, 高良山, 古処山, 矢部村など	1953年に北九州市小倉区道原で採集された記録が本県最初の記録である。その後、局地的ながら、県内に産地が点在し、多産することもあった。しかし、1980年代から正式の記録が急減し、とくに棚田のスズシロソウを発生地とする産地ではほぼ絶滅状態にある	農地の改良、道路の拡幅および舗装が食草の衰退を招き、本種の衰退の原因となっている	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスタ(1992年)で「危急種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
VU	タ, テ	V	ウラナミジャノメ	-	福岡市(油山, 能古島, 志賀島, 立花山), 宝満山, 若杉山, 高良山, 三輪町, 夜須町, 小石原村, 北九州市(皿倉山, 八幡, 福智山, 足立山, 花尾山, 平尾台), 花立山, 耳納山, 三池山, 英彦山, 筑上郡求菩薩山, 豊前市, など	福岡市(平尾, 金山)	1902年に英彦山で採集された記録が本県最初の記録である。1930～60年代には、県内各地で多くの記録があった。しかし、1970年代から報告が減少しはじめ、1990年代からはその記録もほとんどなくなった	生息地である人為的な攪乱のある草原の減少が本種の衰退と関係が深いと考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスタ(1992年)で「危急種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
VU	タ, テ	EN	オオウラギンシジモウモン	-	福岡市(脊振山, 志賀島), 若杉山, 北九州市(足立山, 福智山), 求菩提山, 豊前市, 久留米市, 三井郡, 浮羽郡, 八女郡, 英彦山など	福岡市西公園	1893年に採集された記録が本県最初の記録。1930年代には、福岡市、北九州市などで多くの記録があり、その後も1970年代までは局地的ながら県内全域で連続的に記録があった。しかし1980年代からは正式の記録がほとんどない	本種は山地森林性であり、これがオオウラギンシジモウモンなどよりも衰退傾向を弱めている原因の一つと考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスタ(1992年)で「絶滅危惧種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
VU	タ, テ	V	メスグロヒョウモン	-	福岡市(能古島, 南公園, 志賀島, 脊振山, 金山), 二丈町, 若杉山, 犬鳴山, 宝満山, 花立山, 高良山, 浮羽郡, 北九州市(皿倉山, 妙見山, 石峯山, 福智山, 足立山), 企救郡, 広川町, 英彦山, 豊前市, など	福岡市(西公園, 立花山)	1893年に採集された記録が本県最初の記録といえる。1930～60年代には、県内各地で多くの記録があり、その後も1970年代までは連続的に記録があった。しかし、1970年代から報告が急減し、1980年代からはその記録もほとんどなくなった	森林性の種であるが、放置による照葉樹林化、造林による針葉樹林化が本種の生息環境に打撃を与え、急速に衰退させたと考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッド - タリスタ(1992年)で「危急種」、福岡県レッド - タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている

39. 福岡県 (Fukuoka Pref.)

作成者: 福田 治1); 協力者: 景浦宏, 溝部忠志, 森田公造, 佐々木公隆, 新海義治, 上田恭一郎, 矢田脩, 矢後勝也 作成日付: 2003年1月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
VU	タ,テ	V	クモガタヒョウモン	-	福岡市(油山,立花山,脊振山),若杉山,犬鳴山,宝満山,四王寺山,花立山,高良山,北九州市(皿倉山,八幡,福智山,足立山,平尾台),浮羽郡,星野村,英彦山,求菩提山,豊前市,など	-	1902年に北九州(企救郡)で採集された記録が本県最初の記録である。1930~40年代には、県内各地で多くの記録があった。しかし、1970年代から報告が急減し、1990年代からはその記録もほとんどなくなったが、稀にその姿を見られる場所も存在する	森林性の種であるが、放置による照葉樹林化、造林による針葉樹林化が本種の生息環境に打撃を与えたと考えられる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「危急種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
VU	タ,テ	V	ウラギンヒョウモン	-	福岡市(立花山,志賀島,脊振山,金山),若杉山,宝満山,花立山,高良山,古処山,北九州市(福智山,平尾台),矢部村,星野村,英彦山,豊前市,築上郡求菩提山など	福岡市(南公園,平尾,地行東町),春日市,花立山,高良山,古処山,北九州市八幡	1902年に北九州(企救郡)で採集された記録が本県最初の記録である。その後、県内に普通に見られた。しかし、1980年代から公式の記録が急減し、とくに福岡市など都市部ではその記録もほとんどなくなった	本種の生息地であるシバ草原が転用により開発され、環境変化を受けたため著しく衰退したものと考えられる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「危急種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
VU	タ,テ	R	ミスジチョウ	-	添田町英彦山,犬ヶ岳,経読林道,求菩提山	-	1902年に採集された記録が本県最初の記録である。その後、英彦山周辺地域のみから少数採集されているが、1980年代以降ほとんど記録がない	食樹のカエデを含む二次林の伐採が本種の減少の要因と考えられる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「希少種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「準絶滅危惧種」とされている
VU	タ,テ	R	メスアカミドリシジミ	-	英彦山山系,豊前市犬ヶ岳,経読林道	-	1915年に英彦山で採集されたのが本県最初の記録とされる。その後も本種は英彦山山系のみで記録されている。1970年代以降は成虫の公式な目撃採集記録はなく、全体に個体数は減少しているようであるが、最近の情報によると、経読林道で少数採集されている	落葉広葉樹林の伐採と、針葉樹の植林による生息環境の悪化が要因と思われる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「希少種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「準絶滅危惧種」とされている
VU	タ,テ	R	オオミドリシジミ	-	福岡市,宝満山,八女郡,英彦山	-	1935年に福岡市西油山の中腹で採集された記録が本県最初の記録であるが、1979年より最近の記録はない	本種の生息地であるクスギ,コナラの二次林は人為による環境変化を受けやすく、これがもともと福岡で希少だった本種の衰退・絶滅の原因と考えられる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「希少種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「準絶滅危惧種」とされている
VU	タ,テ	R	フジミドリシジミ	糟屋郡三郡山系,宝満山,那珂川町石谷山,古処山,英彦山山系,星野村,釈迦ヶ岳,御前岳,犬ヶ岳	-	-	1934年に英彦山の北岳で採集された記録が本県最初の記録とされる。本種の生息地はブナ林帯であるが、ブナ林そのものが1000m以上の山地帯に限定されているため、これまで大きな環境破壊はなく、本種の産地も今のところ維持されている。しかし、1980年代から公式の報告は減少しており、今後森林伐採によるブナ林の減少の恐れもある	ブナ帯下部は一部伐採されており、本種の食樹であるブナの減少が見られる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「希少種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「準絶滅危惧種」とされている
VU	タ,テ	V	クロシジミ	四王寺山	福岡市,前原市,那珂川町,北九州市八幡区,宝満山,筑紫野市(吉木,阿志岐),高良山,花立山,筑後市,大牟田市,添田町英彦山,黒木町,瀬高町清水山など	-	1894年に英彦山で採集された記録が本県最初の記録とされる。1950~60年代は県内各地で普通の種として見られた。しかし、1980年代から減少しはじめ、また全国的にも本種の衰退が深刻となった。このため採集による減少も懸念される	生息地は草原に灌木が混じる、あるいは明るい林縁であり、そのような環境は人為的な改変のおきやすい場所であり、衰退の主な原因になっている	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「危急種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
VU	タ,テ	V	クロツバメシジミ ssp. <i>Shojii</i>	築上郡築城町,築上郡大平村の計4ヶ所	-	八女郡矢部村日向神では1984年以来記録が出ない	1967年には矢部村の日向神でいわゆる内陸型の産地が発見されたが、1980年代になって報告が途絶えている。2001年以降、築城町,大平村において産地が発見されたが、いずれも岩塊の露頭や特定の人家の石垣など不安定で狭小な場所に限られている	日向神では、崖の崩落防止の為に削除やコンクリート吹きつけ施工などが本種の生息環境を破壊した結果、激減したと考えられる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「危急種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
VU	タ,テ	EX	スギタニルリシジミ	築上郡犬ヶ岳	矢部村釈迦岳,添田町障子岳では減少してきたものの現在は多少は安定していると考えられる。星野村石割岳は伐採と公園化で、生息数は僅少	-	1963年に矢部村御側で1雄が採集されたのが本県最初の記録である。1970年にも添田町障子岳で1雄が採集されたが、以後1998年まで記録がなかった。しかし星野村で1998年1雄が採集され、翌1999年には御側の近くでかなりの数の個体が採集・確認され、障子岳でも採集された。また、新たに築上郡犬ヶ岳でもかなり採集された。かつての生息地はこれらの山塊の麓から高所まで広がっていたと考えられるが、現在の生息地は高所の伐採を免れた落葉樹林であり、その面積も狭い	生息地の落葉樹林の大規模な伐採と針葉樹の植林により、本種の生息環境が悪化したと考えられる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「絶滅種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
VU	タ,テ	R	ミヤマチャバネセセリ	-	宝満山,若杉山,犬鳴山,高良山,甘木市,北九州市(皿倉山,八幡,福智山),星野村,矢部村,香春町,英彦山,など	福岡市(南公園,平尾,油山,柏原)	1901年に英彦山で採集された記録が本県最初の記録である。その後、県内に局地的ながら普通に見られた。しかし、1980年代から公式の記録が急減し、とくに福岡市など都市部ではほぼ絶滅状態にある	本種の生息環境である明るい草原の減少が、衰退の要因と考えられる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「希少種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている

39. 福岡県 (Fukuoka Pref.)

作成者: 福田 治1); 協力者: 景浦宏, 溝部忠志, 森田公造, 佐々木公隆, 新海義治, 上田恭一郎, 矢田脩, 矢後勝也 作成日付: 2003年1月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
NT	チ,ト	R	オナガアゲハ	-	福岡市, 若杉山, 犬鳴山, 高良山, 北九州市, 宝満山, 花立山, 浮羽郡, 三池山, 瀬高町, 古処山, 広川町・矢部村, 熊渡山, 英彦山, など	-	1890年に英彦山で採集された記録がある。その後、県内各地の低山地の溪流沿いに広く普通に見られた。しかし、1970年代から減少しはじめ、1980年代以降は公式の記録は激減した	本種は山地性の種であり、山腹部の二次林の伐採と針葉樹の植栽が生息環境を悪化させたと考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「希少種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「準絶滅危惧種」とされている
NT	チ,ト	V	ジャノメチョウ	-	大根地山, 四王寺山, 宝満山, 瀬高町, 若杉山, 久留米市, 三輪町, 夜須町, 小石原村, 北九州市(皿倉山, 八幡, 福智山, 足立山, 花尾山, 平尾台), 花立山, 耳納山, 三池山, 英彦山, 築上郡求菩薩山, 豊前市, など	福岡市(南公園, 平尾, 西公園, 金山)	1890年に英彦山で採集報告がある。1930-60年代には、県内各地で多くの記録があった。しかし、1970年代後半から報告が急減し、1990年代からはその記録もほとんどなくなった。海岸に近い松林やその周辺などでは残存生息している場所もある	生息地である人為的に長期間維持された、疎林の混じる明るい草原(シバ草原)の減少が本種の衰退と関係が深いと考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「危急種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
NT	チ,ト	ランク外	ヒメキマダラヒカゲ	-	宝満山, 英彦山, 釈迦ヶ岳, 権現尾根など	-	1906年に英彦山で採集された記録が本県最初の記録である。その後、宝満山, 八女郡釈迦ヶ岳などで採集されているが、1980年代後半から公式の記録は減少している	本種は1000m以上の高所に生息するが、生息域に迫る自然林の伐採が本種の減少にかかわっているように思われる	法令などの指定状況: なし 本種は、福岡県レッドデータブック(2001年)で「準絶滅危惧種」とされている
NT	チ,ト	V	ヒオドシチョウ	-	福岡市, 若杉山, 久留米市, 北九州市, 花立山, 筑後市, 豊前市, 英彦山, 広川町, 矢部村, など	-	1890年に彦山で採集された記録があり、1930-70年代には県内各地で普通に見られた。しかし、1980年代後半から都市部を中心に報告が急減した	本種の衰退の原因として、成虫の主な食餌となるクヌギ類の樹液や腐果が減少したことが考えられるが、好んで産卵する水辺のエノキの減少も要因の一つではなからうか	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「危急種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「準絶滅危惧種」とされている
NT	チ,ト	V	コムラサキ	-	福岡市, 北九州市, 太宰府市, 久留米市, 大牟田市, 浮羽郡, 矢部村, 英彦山, 豊前市, など	-	1890年に英彦山で採集報告がある。その後、県内でごく普通に見られた。しかし、1980年代に入ってから公式の記録が急減し、とくに福岡市など都市部では著しい	本種の生息地であるヤナギのある水辺環境が減少し、またその樹液が成虫の餌となるクヌギ、コナラ類の伐採が本種の衰退の主要因と考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「危急種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
NT	チ,ト	V	オオムラサキ	-	北九州市(皿倉山, 八幡西区, 頂吉, 福智山), 福智山, 久留米市, 甘木市(秋月, 佐田), 浮羽町, 小石原村, 八女郡(黒木町, 星野村熊渡山, 日向神・御側), 豊前市, 築上郡犬ヶ岳など	-	1890年に英彦山で採集報告がある。その後、英彦山からの記録が多いが、北九州市や久留米市など都市周辺でも記録がある。しかし、1980年代から公式の記録が急減し、都市部周辺の産地は絶滅に近い状態にある	本種の生息地であるクヌギ、コナラの二次林は人為による環境改変を受けやすく、これが本種の衰退の主要因と考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「危急種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
NT	チ,ト	ランク外	ウラキンシジミ	-	宝満山, 三郡山系, 古処山, 英彦山系, 北九州市福智山, 釈迦ヶ岳御前岳山系, 八女郡仁田原	犬鳴山	1934年に英彦山で採集されたのが最初の記録である。その後、鞍手郡犬鳴山, 福智山, 三郡山系などで少数ながら連続的に記録がある。しかし、1970年代からは英彦山以外の産地からはほとんど報告がなく、全体として個体数、産地とも縮小傾向にある	落葉広葉樹林の伐採と、針葉樹の植林による生息環境の悪化が要因と思われる	法令などの指定状況: なし 本種は、福岡県レッドデータブック(2001年)で「準絶滅危惧種」とされている
NT	チ,ト	V	アカシジミ	-	福岡市(南公園, 油山), 四王寺山, 筑紫野市山神ダム上方, 那珂川町南畑ダム上方, 宝満山, 久留米市, 小郡市, 宗像市, 篠栗町, 犬鳴山, 北九州市尺岳, 三井郡, 豊前市, 築上郡, 英彦山, など	-	1926年に福岡市の平尾浄水池(現在の南公園)および太宰府市において採集されたのが最初の記録である。その後、県内各地で少数ながら採集報告があった。しかし、1991年の北九州市, 福岡市などの記録の後、急速に減少しているようで、正式の報告はほとんどない	クヌギ, コナラ,などを交えた落葉広葉樹林の伐採, 開発, 針葉樹の植林などによる生息環境の悪化が要因と思われる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「危急種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
NT	チ,ト	V	ミズイロオナガシジミ	-	福岡市(南公園, 立花山, 志賀島, 能古島, 香椎, 六本松護国神社), 糸島郡, 太宰府市, 犬鳴山, 北九州市(妙見, 足立山, 平尾台), 三井郡, 豊前市, 築上郡, 英彦山, 久留米市, 宗像市, 篠栗町, など	-	1935年に志賀島および南公園で採集されたのが最初の記録である。その後、県内各地で採集報告があった。本種は最近でも少しずつ報告はあるが、明らかに個体数・産地の数は減少している。1991年以降の正式の記録は少ない	クヌギ, コナラ,などを交えた落葉広葉樹林の伐採, 開発, 針葉樹の植林などによる生息環境の悪化が要因と思われる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「危急種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
NT	チ,ト	R	カラスシジミ	-	小石原村・宝珠山村, 甘木市江川ダム, 英彦山, 黒木町	-	1924年に英彦山で採集された記録が本県最初の記録である。その後、40年以上正式の採集記録がなかったが、1979年に県内でもハルニレが本種の食草であることを確認した。しかし、1980年代後半から公式の記録がほとんどない	本種の食樹を含む二次林の伐採と針葉樹林化、および道路拡幅のため、集落周辺に残存する食樹を伐採したことが減少の要因と考えられる	法令などの指定状況: なし 本種は、日本産蝶類別レッドデータブック(1992年)で「希少種」、福岡県レッドデータブック(2001年)で「準絶滅危惧種」とされている

39. 福岡県 (Fukuoka Pref.)

作成者: 福田 治1); 協力者: 景浦宏, 溝部忠志, 森田公造, 佐々木公隆, 新海義治, 上田恭一郎, 矢田脩, 矢後勝也 作成日付: 2003年1月

今回 ランク	判定 方法	前回 ランク	種 名	現在も安定して発生している 産地 (市町村)	現在減少傾向にある産地 (市町村)	絶滅したと考えられる産地 (市町村)	衰退の経過	減少要因	備考(対策・文献など)
NT	チ,ト	V	コツバメ	-	福岡市(油山,飯盛,今宿,立花山,脊振山),若杉山,高良山,北九州市(山田緑地,小倉,足立山),宝満山,花立山,浮羽郡,三池山,星野村,矢部村,英彦山,など	福岡市(南公園,平尾)	1902年に英彦山で採集された記録が本県最初の記録である。その後、県内で広く普通に見られた。しかし、1980年代から公式の記録が急減し、とくに福岡市など都市部ではほぼ絶滅状態にある	本種の生息地であるクヌギ,コナラの二次林は人為による環境変化を受けやすく、これが本種の衰退の主要因と考えられる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッド・タリスト(1992年)で「危急種」、福岡県レッド・タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
NT	チ,ト	V	クロツバメシジミ ssp. <i>fischeri</i>	-	北九州市門司区,宗像郡大島村,玄海町,福岡市西区,糸島郡志摩町。これらの生息地では不安定	北九州市若松区,津屋崎町,福岡町	1955年に糟屋郡相ノ島で採集された記録が本県最初の記録とされる。その後、北九州市,宗像郡津屋崎町,沖ノ島,芥屋など海岸沿いで発見された。1980年代になって報告が急減し、1990年の再調査では、芥屋と新宮町のみからわずかに見いだされたという。いずれの生息地でも年による増減幅が大きい。1990年代終わりから2000年代初めに福岡市西区,志摩町で相次いで数ヶ所新産地が見つかったが、これらの産地は今までに生息していなかった場所であり、継続発生が維持できるか注目される	開発による海岸環境の変化が衰退の主な原因と思われる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッド・タリスト(1992年)で「危急種」、福岡県レッド・タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
NT	チ,ト	V	ミヤマセセリ	-	福岡市(油山,能古島,立花山,曲淵,南畑ダム,水無,脊振山,金山),四王寺山,宝満山,筑紫野市,若杉山,犬鳴山,高良山,北九州市(八幡,大谷,小倉,足立山),花立山,浮羽郡,三池山,星野村,矢部村,英彦山,築上郡,豊前市,など	福岡市(南公園,平尾,香椎,立花山)	1902年に北九州市で採集された記録が本県最初の記録である。その後、福岡市,北九州市,久留米市をはじめ、県内各地で見られる種であった。しかし、1980年代後半から公式の記録が急減し、とくに福岡市など都市部ではほぼ絶滅状態にある	本種の生息地であるクヌギ,コナラの二次林は人為による環境変化を受けやすく、これが本種の衰退の主要因と考えられる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッド・タリスト(1992年)で「危急種」、福岡県レッド・タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
NT	チ,ト	V	ヒメキマダラセセリ	-	福岡市(平尾,油山,石釜,椎原,金武),前原市火山,宝満山,天拝山,四王寺山,若杉山,犬鳴山,京都郡,高良山,北九州市(山田緑地,八幡,花尾山,鷲峰山,足立山,福智山),花立山,浮羽郡,三池山,星野村,矢部村,英彦山,など	-	1901年に英彦山で採集された記録が本県最初の記録である。その後、福岡市,北九州市,久留米市をはじめ、福岡県下に普通に見られた。しかし、とくに福岡市など都市部では急速に減少している	本種の生息環境である明るい草原や林縁の草地の減少が、衰退の要因と考えられる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッド・タリスト(1992年)で「危急種」、福岡県レッド・タブック(2001年)で「絶滅危惧 類」とされている
DD	ネ	R	ヘリグロチャバネセセリ	-	若杉山,福智山,黒木町	-	1938年に若杉山で採集された1雄の記録が本県最初の記録である。その後、ほとんど記録がなく、1983年に北九州市福智山,1984年に黒木町で採集された記録があるだけである。もともと希少な種と考えられるが、生息地の環境の変化が著しく、衰退・絶滅の恐れは十分考えられる	落葉広葉樹の疎林が混じる草原環境が急減したことによると考えられる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッド・タリスト(1992年)で「希少種」、福岡県レッド・タブック(2001年)で「準絶滅危惧種」とされている
ランク外	その他	R	オオチャバネセセリ	-	福岡市,宝満山,若杉山,高良山,花立山,浮羽郡,北九州市,大牟田市,英彦山,など	-	1893年に採集された記録が本県最初の記録といえる。1930~60年代には、県内各地で多くの記録があり、その後も1960年代までは普通に見られた。しかし、1970年代後半から報告が急減し、とくに福岡市など都市部ではほとんど見かけなくなった	明るい二次林が接する笹原が本種の生息環境であり、そのような環境が開発や針葉樹林化,照葉樹林化したことによると思われる	法令などの指定状況:なし 本種は、日本産蝶類別レッド・タリスト(1992年)で「希少種」、福岡県レッド・タブック(2001年)で「準絶滅危惧種」とされている

1) 〒814-0113 福岡県福岡市城南区田島4-12-2-104